

一 般 質 問

令和6年6月25日
第2回広尾町議会定例会

通告 順序	議席 番号	質 問 者
1	4	雄 谷 幸 裕
2	10	前 崎 茂
3	6	松 田 健 司
4	1	齋 藤 弘 樹
5	2	尾 矢 利 昭

通告順序1 質問者：雄谷 幸裕

1. 福祉灯油等の増額と援助対象世帯の拡充について

(1) 昨年度は、物価高騰の影響から臨時的に100リットル増額され、200リットル分が援助されましたが、通常分の100リットルでは、「生活困窮者世帯に対する燃料費の援助に関する要綱」の目的を十分に果たすことができません。

昨年11月の新聞報道によりますと広尾町より支給内容が多い町村が7町村あります。

福祉灯油等の援助を灯油300リットル相当額まで増額してはどうか。

(2) 要綱(第2条)では、福祉灯油等援助対象世帯は「社会福祉施設入所者及び病院等に入院中の世帯を除く。」となっているが、施設及び病院等では冬季加算として暖房費相当額が徴されている。その暖房費の一部を援助対象としては。

(3) 生活保護世帯の援助は60リットルとなっているが、この60リットルは要綱が改定された当時の生活保護の収入認定にならない額との兼ね合いだったと思うが、十勝総合振興局社会福祉課に取材したところ、国の応援支援金やコロナ給付金などは収入認定してなく、同じように町の独自政策は収入認定していないとのことであるので、生活保護世帯も同じ援助の額にすべきと思うが。

2. 職員定員管理適正計画の策定状況及び休暇の取得状況について

(1) 職員定員管理適正計画の目的は。職員定数条例の第2条を合計すると162人ですが、定数条例との関連性は。併せて、定員管理の目標について考えを伺う。

(2) 第5次行政改革推進計画は本年度で終了ですが、行政改革推進計画(個票)の項目「9. 期待される効果」が具体的に表れているか。

(3) 有休休暇、病気休暇、夏季休暇、リフレッシュ休暇について、過去3か年における職員1人の平均取得状況は。

(4) 連続でなくても良い2日間のリフレッシュ休暇では、心身ともにリフレッシュできるのだろうか。連続5日間の計画年休の導入はどうか。

3. 町政執行方針について

選挙公約の一部が町政執行方針に盛り込まれている。種々の公約を実現していくためには、自主財源の確保、健全な財政基盤の確立が必要であると思うが、その考えについて伺う。

1. 高齢者の足を確保するコミバス等の早期導入を

今日の高齢化社会において、高齢者等交通弱者の移動手段の確保は急務である。

十勝管内でも高齢者の外出需要の増大に伴い、日常生活圏域を確保することと併せ、閉じこもり防止など総合的施策として、ほとんどの自治体でコミュニティバス等の導入をしている。

また、芽室町や音更町などでは、市街地のコミバス運行と併せて農村地域では乗合タクシーを運行させるなど全町的に高齢者等の交通手段の確保を図っている。

本町では、無料タクシー券を75歳以上の方に配布しているが、日常生活面など外出需要には十分とは言えず、コミバスや乗合タクシー等の導入を図ることが急務と思うが。

2. 高齢難聴者の補聴器購入助成を急ぐべきでは

今日の高齢社会において、高齢者等の加齢性難聴者が増加している。「高齢になり、耳が聞こえづらくなった。」という加齢性難聴は、日常生活を不便にしコミュニケーションを困難にするなど、生活の質を落とす大きな原因となるばかりか、うつ病や認知症の要因になると指摘されている。

難聴は65歳頃から増え始め「(社)日本補聴器工業会」の調べによると、難聴者のうち我が国で補聴器を使用している方は、15%に過ぎないと推計している。

管内では、新得町など高齢者の補聴器購入に際し、5万円を助成し「生きがいと生活支援」、「高齢者の社会参加」への促進を図るとしている。

本町でも高齢化率が41%を超えている今日、早期に補聴器購入にかかわる支援を行うべきではないか。

1. 「子ども真ん中社会」実現への取組について

令和5（2023）年4月に施行された「こども基本法」に対する広尾町の取組について伺う。

こども基本法は、子ども施策を地域社会全体で総合的かつ強力で推進していくための包括的な法律であり、「差別の禁止」、「生命、生存及び発達に対する権利」、「児童の意見の尊重」、「児童の最善の利益」の4原則から成り立っている。広尾町ではこれに基づき、「こども計画策定委託事業」として、718万1,000円が新年度予算として計上されたが、今後、「広尾町こども計画」策定に向け、どのような工程を辿るのか。

また、今までにあった「広尾町子ども・子育て支援事業計画」と比較して、どこが向上し何が変わるのか。そして、これからの新しいまちづくりの中で、どのように活用されるのかを伺う。

2. 町政執行方針について

（1）キャンプ場の整備について

広尾町のキャンプ場の整備については、整備費用の拡大や危険倒木等の問題から計画が白紙の状態になっていると認識しているが、キャンプ場整備に対しての現時点での考えを伺う。

（2）地域おこし協力隊について

執行方針には、地域おこし協力隊の制度を活用して移住・定住の促進につなげるとあるが、そもそも広尾で活動する地域おこし協力隊自体の定住率が全国平均、全道平均から乖離していると認識するが、広尾で活動する活動隊員の定住率、また各指標平均より定住率が低い状況をどのように分析されているのかを伺う。

（3）広尾高校の持続的発展への考えについて

広尾町のまちづくりの根幹を担う広尾高校の持続的発展は、広尾町にとっての最重要課題の一つと認識しているが、町政執行方針では文章で2行である。現時点での広尾高校の持続的発展に対する考えと、今後の入学見込み等を伺う。

1. スポットバイトの普及について

町内において労働力不足が課題となっており、飲食業では営業時間を短縮せざるを得なかったり、大人数の予約に対応できない等の機会損失をしてしまうことがある。

一次産業においても人手不足により十分な生産量を確保できないなどの課題を抱えており、単日・短時間のスポット的にでも労働力を確保したいというニーズがあると感じている。

町内の労働環境について対策を講じているかを伺う。

- ① 「広尾しごと」による求人マッチングの実績数
- ② スポットバイト求人サービスとの連携に向けて取り組むことは可能か

2. 役場職員の副業について

地域の発展、活性化に寄与するものや公共性が高いものなどルールを設けたうえで、幾つかの自治体が行政職員の副業を積極的に促しているが、本町においてもそれらを検討しているのかを伺う。

- ① 事業者や一次産業従事者に対し、従業員やパート、アルバイト職員の過不足・労働力のニーズなどについて、実態を把握しているか
- ② 町の職員が副業についてどのように考えているか実態を把握しているか
- ③ 町の職員の副業について、積極的に認める意向はあるか

3. 町政執行方針について

(1) 商工業の振興について

起業家等支援事業補助金については示されているが、町長の公約に掲げられた「商工業経営改善等補助金の創設」は。

現時点で新たに補助を行う予定があればどのようなものか。

(2) 子育て支援、地域福祉について

執行方針における「ファミリーサポート事業」の利用状況の実績数はどれくらいか。

また、普及に向けた周知方法はどのような手段を考えているか。

通告順序5 質問者：尾 矢 利 昭

1. 防災・減災に関わる災害時の町内商工業者との連携について

防災・減災対策及び災害発生時における緊急対応、復旧作業に町内商工業者との連携は欠かせない。

これまでの現状と今後の取組について伺う。

2. 外国人技能実習生の受入れに関わる経費等の軽減策について

このことについて、受入れする事業主の負担が大きい。人材不足を補うためにも事業主に対し空き家になっている公営住宅の貸与等を検討する考えは。